

阿蘇山における地磁気全磁力変化*

Variation of Geomagnetic Total Intensity at Aso Volcano

気象庁地磁気観測所
Kakioka Magnetic Observatory, JMA

阿蘇山における2008年6月から2008年9月までの地磁気全磁力変化について報告する。

第1図に阿蘇中岳火口周辺で気象庁が実施している3点の連続観測点(○)と、22点の繰返し観測点(●)の配置を示す。

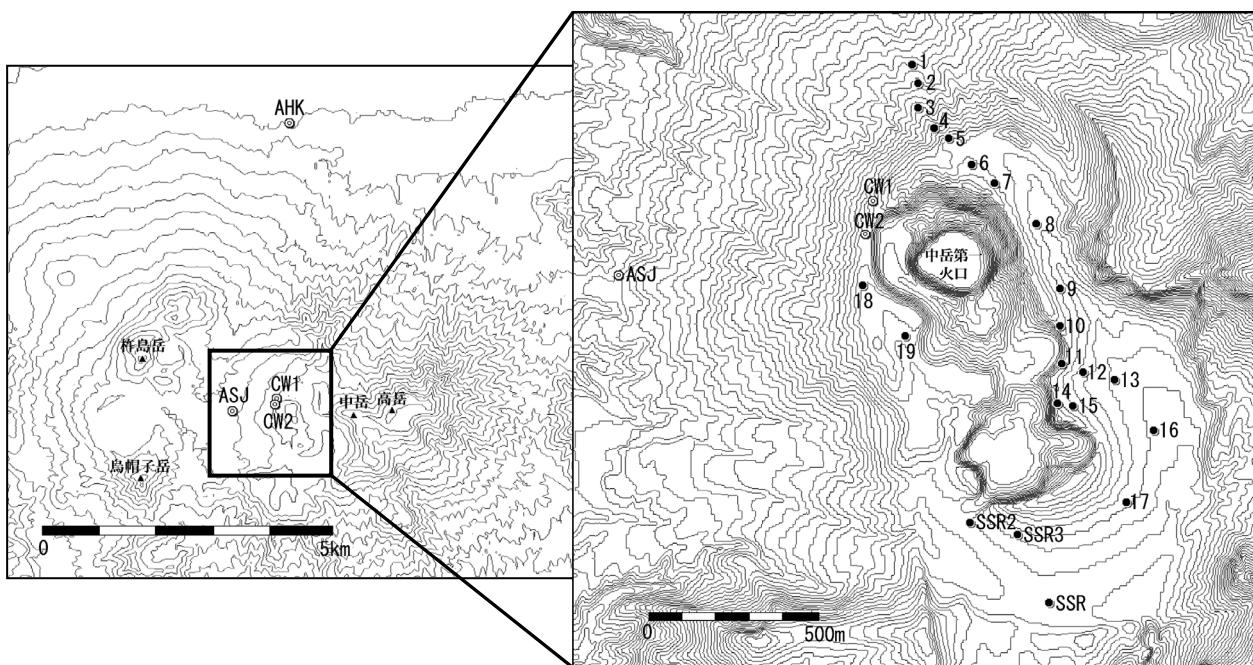
連続観測点CW1、CW2、ASJで得られた2004年11月から2008年9月までの全磁力日平均値と、中岳火口から北側約5kmのところにある参考点AHK(北緯 32度55.58分、東経 131度05.25分)の全磁力日平均値との差を第2図に示す。2006年8月末から10月に掛けてのCW1、CW2の変化は、降水量、火山活動資料等を参考に検討したが、原因是不明である。この期間を除くと2006年5月以降火口の北側(CW1、CW2)で僅かながら増加しており、その傾向が鈍化しているように見える。またASJの変化は年周変化と見られる。

第2図の観測データから確率差分法¹⁾により超高層や外核起源の広域変動を除去し、火山性の変動の有無を検証した(第3図)。広域変動の見積りには、AHKの全磁力及び地磁気観測所鹿屋出張所(鹿児島県鹿屋市、阿蘇山から南側約170kmの位置)の地磁気3成分(南北、東西、鉛直)を参照した。2006年8月から10月までの期間を除くと、年周変化以外には顕著な変化はない。

参考文献

- 1) 藤井郁子 (2004) : 確率差分法を用いた火山性全磁力変動の抽出手法, 地磁気観測所テクニカルレポート, 2, 1, 1-15.

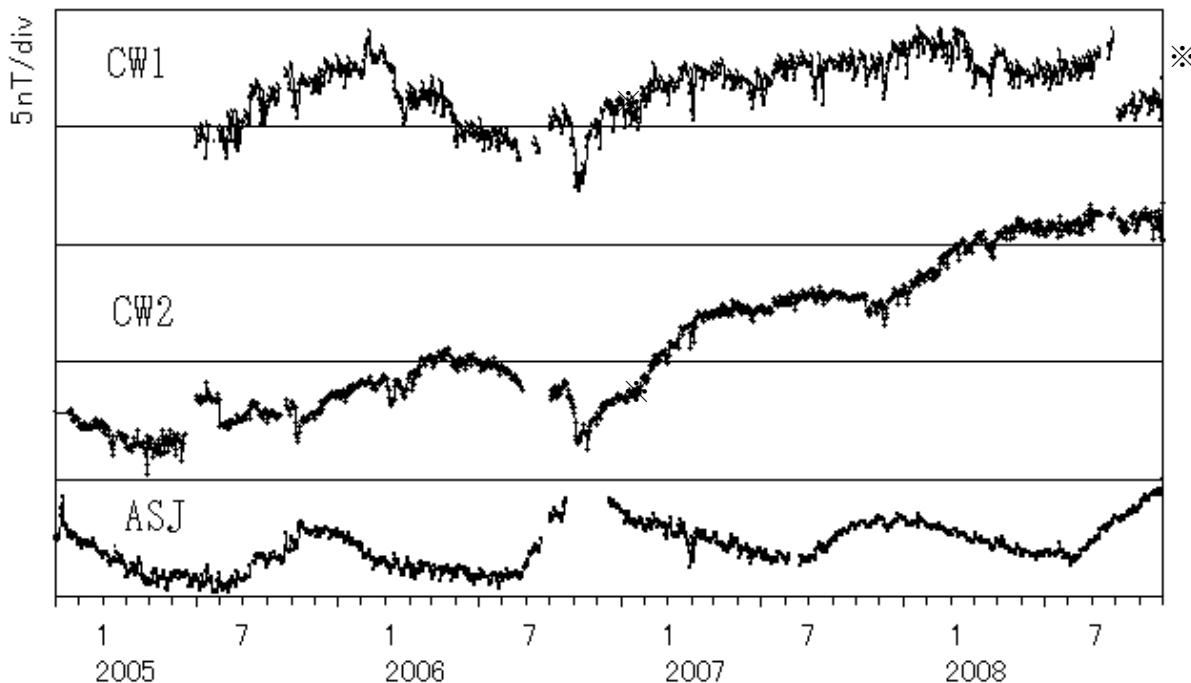
*2009年8月24日受付



第1図 全磁力観測点配置図(○:連続観測点 ●:繰返し観測点)

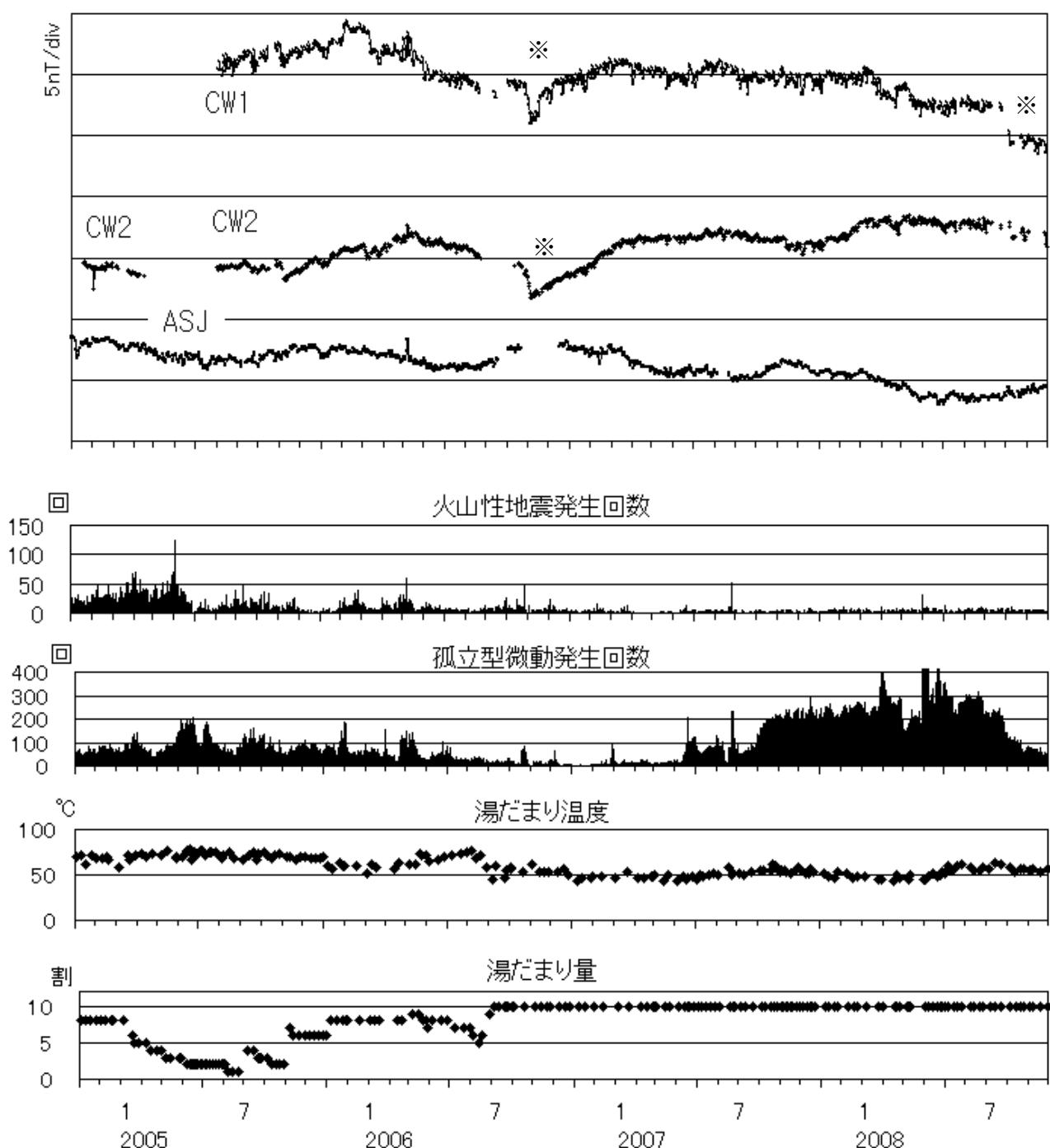
この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ(標高)」と「数値地図10mメッシュ(火山標高)」を使用した。

Fig.1 Locations map of geomagnetic total intensity observation stations. Continuous and repeat stations are marked by ○ and ●, respectively.



第2図 2004年11月から2008年9月までの連続観測点CW1、CW2、ASJにおける全磁力日平均値と参照点AHKの日平均値との差。※印の変化の原因は不明。

Fig.2 Differences of the daily mean values in the geomagnetic total intensities between the continuous stations CW1, CW2, and ASJ and reference station AHK from November 2004 to September 2008.



第3図 連続観測点CW1、CW2、ASJの全磁力変化からAHKの全磁力及び地磁気観測所鹿屋出張所の地磁気3成分を参照して広域的変動を除去した残差、火山性地震発生回数、孤立型微動発生回数、湯だまり温度。※印の変化の原因は不明。

Fig.3 Residual total intensity at CW1, CW2, and ASJ obtained after subtraction of externally correlated variations by applying the stochastic differential method referred to the total intensity at AHK and the three vector components of geomagnetic field at Kanoya Magnetic Observatory.